

事業所における自己評価結果（公表）

公表 平成 31年 2月 28日

事業所名 ちのび

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%				
	2 職員の配置数は適切である	100%				
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	83%	17%	に障害の色分け 貼りのつ立		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	83%	17%			
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	50%	50%		全休・個人の目標設定を明確化する	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	83%	17%			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	50%	50%	変更による説明がけが家 族になるのを回避す るため	スタッフへの周知不足	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50%	50%	統合アプリ外で稼働数 増	第三者外部評価についてスタッフへの周知不足	
	9 職員の質の向上を行うために、研修の機会を確保している	50%	50%		スタッフのモチベーションを高めること が、研修・モニタリング時に課題と改善を明確に伝 える	
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%				
	11 子どもの適応行動の状況を限るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	83%	17%			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「地域支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%				
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%				
適切な支援の提供	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%				
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		カルテを活用し、連携を図る		
	16 子ども状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%			目的プログラムの中や障 害特性別の個別活動を特 別に付けている	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	83%	17%	申し送りを使用	PE用語は療養の場面になるので スタッフの理解への活用	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	67%	33%		スタッフ連携ノートの活用	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		ミーティング時に各利用 者についてレコで発表		
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しを判断している	83%	17%	10～15月に1度相談会	スタッフへの周知不足	
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	83%	17%			
	22 母子保健や子ども子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	83%	17%	保健センターとの連携		
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等も支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					
関係機関や保護者との連携	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等も支援している場合) 子どもの主治医や協力関係機関等と連携体制を整えている					
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%		送迎時に担任または協 助の先生と情報共有		
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%		保護者と相談しながら実施		
	27 障の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%				
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	33%	67%		一部のスタッフのみあり	
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	33%	67%		年に1回程度参加を計画	
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	83%	17%			
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	50%	50%		家族支援プログラムについてどのような 形で実施するかはまだ決定し ない	
	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%				
	保護者への説明責任等	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の理解を得ている	100%			
34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		100%		月に1回程度個別 利用者がなくても一 般の土曜日の利用可能		
35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		100%			月に1回の事業所後 援会活動が恒久的な 目標を実施	
36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している		100%				
37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		100%		LINE連携 Facebook チラシとイベント作品展		
38 個人情報取扱いに十分注意している		100%				
39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		100%				
40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている		100%		10月1日 クリスマスイベントの実施		
非常時等の対応		41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	83%	17%		スタッフの再教育
		42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	83%	17%		スタッフの再教育 3月9日の訓練スケジュール化
	43 事前に、避難や予防接種、てんかん発作等のこども状況を把握している	100%				
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	100%		保護者と連携し、アレルギー への資料チェックを徹底		
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%				
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%				
	47 どのような場合にも必ず必ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	67%	33%		スタッフの再教育 状況を想定したうえでロールプレイングの実 施	

〇この事業所における自己評価結果(公表)は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

事業所名 ちやお 保護者等数(児童数) 17名 回収数 14名 割合 87%

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	93%	7%				
	2 職員の配置数や専門性は適切である	85%			15%	PT,OT,STを配置を希望 有資格者と認識している	発達支援では担当制マンツーマンを 実施しており現状PT,OT,STの配置 は運営上困難
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された 環境になっている。また、障害の特性に応じ、事 業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等 への配慮が適切になされている	78%	7%		15%	バリアフリー以外が良い環境だ と思う 工夫された生活空間だと思う	施設が2階にある為バリアフリーは 不可ですが、カーベットの色分け死角を減ら すようにしています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境に なっている。また、子ども達の活動に合わせた 空間となっている	78%			22%	写真では十分な環境	おやつ後屋食後は必ず掃除機をかけ 活動空間の清潔維持に気を付けています
適切な支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、児童発達支援計画が作成されて いる	100%					
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイド ラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発 達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支 援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの 支援に必要な項目が適切に選択され、その上 で、具体的な支援内容が設定されている	100%					
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われてい る	100%					
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫され ている	100%				その日の子どもに(体調) 合わせてもらっている	できることが喜びとなるよう、元気が ない時は様子を見ながら実施しています。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、 障害のない子どもと活動する機会がある	14%	7%	14%	65%		イベント実施時には外部の子どもとの 交流もあるが、イベントへの参加は 自由
適切な支援の 提供	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明 がなされた	93%			7%		
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の 提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、こ れに基づき作成された「児童発達支援計画」を 示しながら、支援内容の説明がなされた	93%			7%		
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレン ト・トレーニングiv等)が行われている	44%	14%	14%	28%		特にご意見はなかったが、本年度の 事業に組み込む予定
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子 どもの健康や発達の状況、課題について共通理 解ができているか	100%				(送迎時)先生より子どもの様子 を伝え聞いている	
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関す る助言等の支援が行われている	93%	7%				
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催 等により保護者同士の連携が支援されている	28%	21%		48%		運営報告会とその後の保護者懇親 会の周知不足
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、 対応の体制が整備されているとともに、子ども や保護者に周知・説明され、相談や申入れをし た際に迅速かつ適切に対応されている	86%	14%				月3回の設定した相談日と希望相談 周知不足 ちやお通信にて再度発信
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達の ための配慮がなされている	100%					
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要 や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関す る自己評価の結果を子どもや保護者に対して発 信されている	78%	7%		15%		自己評価について本年2月中に対応 ちやお通信は1ヶ月に1度発行 Facebookは月に2～3度更新
19 個人情報の取扱いに十分注意されている	93%	7%					
非常時等 の対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染 症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・ 説明されている。また、発生を想定した訓練が 実施されている	36%	14%		50%		周知不足 ちやお通信で年間スケジュールと訓練事前 事後の報告を実施する
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、 その他必要な訓練が行われている	14%	7%	7%	72%		周知不足3月9日に実施 訓練事前事後の報告を実施する
満足度	22 子どもは通所を楽しみにしている	100%				スムーズに行っている	
	23 事業所の支援に満足している	100%				1時間しっかり療育 されている	

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公表）

公表：平成32年 2月 28日

事業所名 ちゃお

保護者等数(児童数) 15名 回収数 13名 割合 87 %

		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	100%				
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	100%				
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	54%	45%			施設が2階にある為バリアフリーではない
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	100%				
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	92%	8%		季節に合わせた工作やイベントが充実していると思う	季節・情緒も生活の中に積極的に取組ます
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	15%	62%	23%		イベント実施時には施設外の子どもの交流もある
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%				
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	92%	8%			
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100%				
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	70%	30%			年1回の運営報告会とその後の保護者懇親会の周知不足
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	77%	23%			個人情報上問題ない場合はちゃお通信で全利用者に発信している
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	92%	8%			利用の有無だけでなく状況確認メール電話をとっている
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	92%	8%			
	14	個人情報に十分注意しているか	100%				
非常時 等の 対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	38%	54%	8%		周知不足。ちゃお通信で年間スケジュールと訓練事前事後報告の実施
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	30%	62%	8%		周知不足。3月9日に実施。訓練事前事後報告の実施
満足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	92%	8%		作品等が工夫されていて子どもが喜んでいる	
	18	事業所の支援に満足しているか	100%			子どもの特性をよく理解して対応していただいております	

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：平成 31年 2月 28日

事業所名 ちやお

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	目標や改善すべき点を設定した 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			
	2 職員の配置数は適切である	100%			
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	83%	17%		施設が2階にある為バリアフリーではない
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	50%	50%		全体と個人の取組む目標設定を明確にする
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	83%	17%		2月末をもって評価結果を掲載
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	50%	50%		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	83%	17%		第三者外部評価についてスタッフへの周知不足
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	50%	50%		ミーティング時毎回課題に取り組んでいるので課題の狙いと得たい成果を明確にスタッフ
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%			
	10 子どもへの対応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	83%	17%		オリジナルツールで行動目的・目標などを定めている
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			
適切な支援の提供	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		曜日によってプログラムが異なる	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%		曜日によってプログラムが異なる	
	14 子どもに状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%			
	15 活動開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	83%	17%	連絡ノートでの申し送り活用	出勤時間が異なるため必ずはできていない
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有している	67%	33%	連絡ノートでの申し送り活用	出勤時間が異なるため必ずはできていない
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	83%	17%		3~6ヶ月に相談会を実施
	19 ガイダンスの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	100%			
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	83%	17%		
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子ども下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	83%	17%		送迎時に学校の先生や加配担当の先生と共有
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%			提携医療施設
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%			送迎時に情報共有
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				まだ経験なし
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%			
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	34%	66%		個々ではあり。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	34%	66%		年2回以上の参加を目指す
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	83%	17%		
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	50%	50%		8月までに企画立案
	関係機関や保護者との連携	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		
31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		100%			
32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		100%			報告会後保護者の懇談会あり 主旨説明と周知
33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している		100%			
34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		100%			
35 個人情報に十分注意している		100%			
36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		100%			
37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		100%			
38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		67%	33%		再度スタッフへの周知
39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		67%	33%		3月9日に実施 スタッフへの周知
保護者への説明責任等	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	83%	17%	時事的な事例をピックアップ	ミーティング時に必ず課題に取り上げる
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	67%	33%	ロールプレイングの実施	再度スタッフへの周知
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	100%			全て製菓メーカー
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			
	44 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	83%	17%	時事的な事例をピックアップ	ミーティング時に必ず課題に取り上げる
非常時等の対応	45 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	67%	33%	ロールプレイングの実施	再度スタッフへの周知
	46 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	100%			全て製菓メーカー
	47 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			
	48 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	83%	17%	時事的な事例をピックアップ	ミーティング時に必ず課題に取り上げる
	49 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	67%	33%	ロールプレイングの実施	再度スタッフへの周知